



# 将来の自分へのメッセージ

二本松市立岩代中学校2年 菅野 明人

東日本大震災の起きたとき、僕は生まれて3ヶ月ほどで記おくにはないものでした。

僕は、実際に被害を受けた浪江町の方々のお話や伝承館、請戸小学校などで東日本大震災や原子力発電の事故による被害を見て、聞いて、体験して学びました。

震災を経験した人の思いや被害を受けた姿を知り、僕はこれからいつどこでおきるかわからない様々な災害に対して、福島県以外の人も全員、知識をもらい備えることが大切だと感じました。

僕は震災について多くのことを学んで、人との関わりによって救われる命があること。いつあたり前なことができなくなるかわからないことを知りました。このことを学んだ僕たちは次の世代へこの日のことをつないでいきます。

# 将来の自分へのメッセージ

白河市立白河第二中学校2年 村田 彩寧

今の私が未来の私に伝えたいこと。それは  
3つの「い」を大切にしてほしいということ。

1つ目は命。奪われてはいけない、失いた  
くない、かけがえのないもの。

2つ目は意志。自分の声を、気持ちを大切  
にして耳をそっと傾けること。

3つ目は彩り。自分の生きるまちを彩り、  
自分の心を豊かにすること。

3月11日の午後2時46分。この3つを一瞬  
にして奪われた人たちがいる。生後約9か月  
だった私は何も分かっていなかった。

あの日から13年。今もなお、復興活動が続  
いている。苦しんでいる人たちがいる。今の私  
は、そんな人達を助けられる、支えられる人  
になりたい。直接でなくていい。今のあなた  
にできることを全力で取り組んでほしい。

# 将来の自分へのメッセージ

白河市立白河第二中学校2年 古川 未麗

未来の私、元気に生きていますか。

「東日本大震災」が起きた3月11日の2時46分、あなたは0歳でまったく記憶はありませんよね。地震が起きた時、あなたは車で母とドライブをしていました。あと数日で生まれてから半年というときでした。母は車からの景色を私に「家が目視でわかるほどゆれていて人も歩けなくて動けない人がいた」と教えてくれました。

あれから13年たった今、私は原子力発電所の燃料デブリを取り出そうとしているニュースを見ています。あの日止まってしまった未来は13年たった今、動き出しています。あの時わからなかった物を学び、理解して一人の福島県民として未来へできることを私も取り組み、一歩ずつ未来に向かっていきます。

# 将来の自分へのメッセージ

鏡石町立鏡石中学校1年 菅野 七緒

この手紙をみている将来の私は1日1日を大切にしていますか。私は今東日本大震災のことについて学んでいます。

私は東日本大震災という大きな地震がおこった約1年後に生まれました。そして、今この手紙をかいている中一の私は今生きている「1日1日」が、すごく大切なことを学びました。

2011年3月11日東日本大震災があった、未来でまたこのような大震災がおこったら、自分が生きてる町、自分の命を大切にできるように、「1日1日」を今この手紙をかいている今のように、毎日楽しんでほしいです。